

稲作情報

No.2 「健苗育成」

JAえちご中越 さんとう営農センター
TEL: 0258 (41) 2887

令和 7年 3月19日

水稲栽培のはじまりは健苗育成「苗半作の精神」でスタートダッシュ!!

「苗半作」とは…?

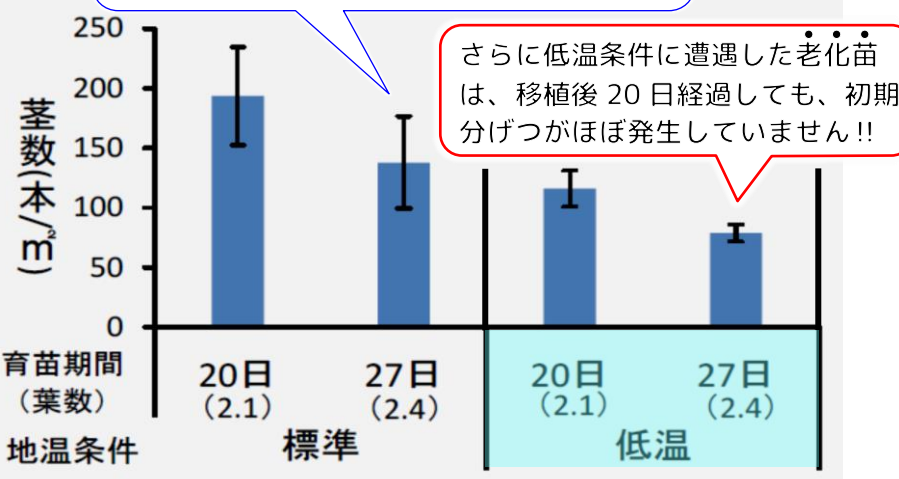
古来より水稲栽培においてよく使われる「格言」です。苗を育てる「育苗作業」が、稲を育てる工程の半分を占める重要な作業であるという意味。また、苗の良・否が作物の成長や収穫の良し悪しまで影響することを表している言葉です。

「苗半作の精神で苗作りに取り組んだから今年の稲作は品質も収量もバッチリだ!!」

健苗育成には「育苗期間の設定」が重要なジャ!!

なえはんさく

健苗(20日苗)に比べて育苗日数が長くなった苗 = 「老化苗」は初期分げつ(移植後20日)の発生本数が30%少なくなります!!



さらに低温条件に遭遇した老化苗は、移植後20日経過しても、初期分げつがほぼ発生していません!!

【図】 稚苗の育苗期間が分げつの発生に及ぼす影響
* 新潟県水稲栽培指針より引用(移植20日後調査)

異常気象に負けるな!! 「丈夫な稲づくり」のスタートは「健苗育成」から!!

1. 水稲育苗の準備を始めましょう!!

TAC が育苗ハウスにお伺いします。お気軽にお声がけください!!

(1) 育苗ハウスの準備

- ◇1 いもち病やばか苗病の感染源となる稲わらや籾殻は、育苗ハウス内・近辺から除去しましょう。また、育苗床土へのくん炭混和や育苗時の敷材としての使用は避けましょう。
- ◇2 ビニールを早めに張ることでハウス内を乾かすとともに、地温を高めておきましょう。

(2) 育苗資材の準備

育苗期の高温や播種回数の増加によって生じる高温対策が重要ジャ!! 各被覆資材の特性を理解した上で、適切な育苗管理に努めるのジャ!!



① 被覆資材

資材名	保温性	保水性	遮光性	使用上のポイント
トーカーほなみ (加温育苗向け)	○	◎	○	高温晴天時の床土温度上昇を抑制し、苗ヤケしにくい。適度な水分を保持する、軽量で耐久性◎
ミラシート	○	○	△	使用年数により保温性・保水性が低下する。外気温が25℃以上になると苗ヤケリスクが増大する。
太陽シート (無加温育苗用)	△	◎	◎	高温晴天時の温度上昇を抑え、ハウス換気が不要。△低温時の発芽揃いに難あり → 二重被覆が必要

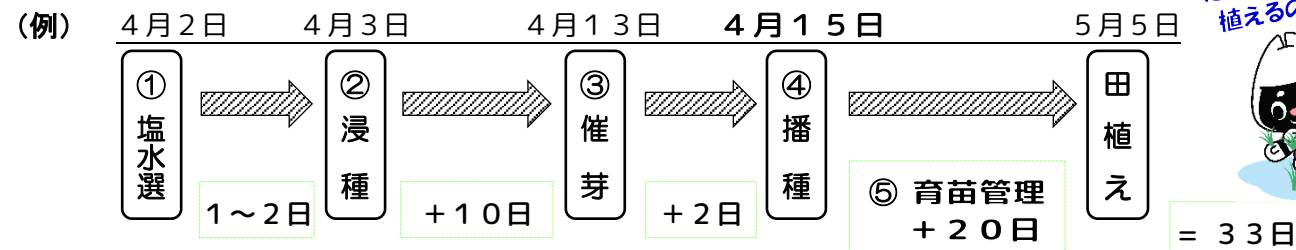
- ※ 外気の影響を受けやすい所や成長が遅れている苗には「サイドほっとネット」を活用して下さい。
- ※ 被覆資材の劣化は、保温・保水性の低下による「苗ヤケ・発芽不良・生育不揃い」の発生を助長してしまいます。→ 定期的(3年~5年以内)に更新して下さい。

② 育苗資材の消毒

薬剤名	散布時期	留意事項
イチバン	“土つめ前” (育苗箱、出芽室、被覆資材の消毒)	① 作業場などを清潔にしてから作業する。 ② イチバン(500~1000倍希釈液)の散布は資材が十分に濡れる程度とし、残液処理は種子消毒剤残液処理方法にしたがう。

2. 播種計画(稚苗育苗)を立てましょう!!

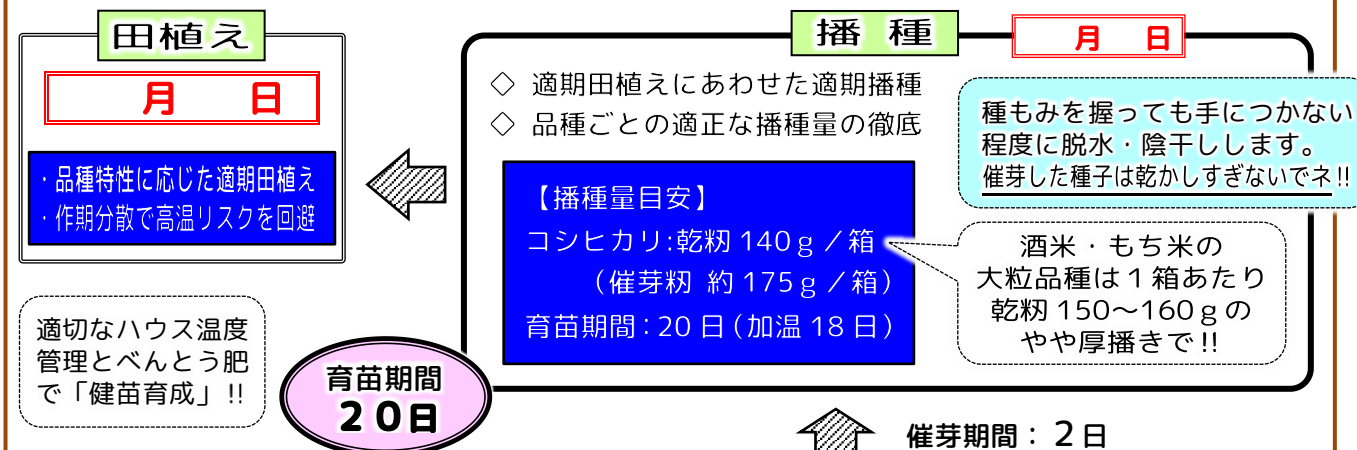
「老化苗・軟弱徒長」防止のため、各品種別に適正な作業計画を作成し、田植えに合わせた適期播種(育苗日数20日程度)、適正播種量、的確な温度管理による健苗育成に努めましょう!!



適期に健苗を植えるのジャ!!



田植え予定日から逆算して「種子予措~播種日」のスケジュールを立ててみましょう!!



催芽・種子消毒

◇ 催芽温度が30℃を超えると細菌性病害が発生しやすくなるため、催芽温度は28~30℃(30℃未満)を徹底し、日数は1~2日を目安として下さい。

◇ 催芽終了は、「ハト胸」状態がめやすです。発芽率が80%以上となるように催芽日数を調節します。芽の伸ばしすぎにも注意して下さい。

◇ JAから供給する種子は温湯消毒済ですが、薬剤防除に比べばか苗病・褐条病に対する防除効果が劣ります。タフブロックによる消毒処理を行って下さい。



使用区分	使用資材名	使用基準	備考
種子消毒	(温湯消毒)	-	60℃の温湯で10分、15℃以下の冷水で6分冷却処理
	タフブロック	200倍液に24時間浸漬	いもち病・ばか苗病・苗立枯病ほか：催芽時処理

タフブロックによる種子消毒は、催芽前処理も可能ですが、催芽時に比べると効果が劣ることがあるため、催芽時に使用して下さい!!

浸種

◇ 発芽揃いを良好にするため、①浸種水温は10~15℃、②十分な水量(種子容量の2倍程度)を確保して、③積算温度100℃を目安に浸種して下さい。

【注意!!】 休眠の深いコシヒカリ・五百万石などの積算温度は120℃とします。また、浸種開始時の低水温(10℃未満)は、発芽揃いが悪くなるので避けて下さい!!

塩水選

◇ より充実した粉を選別するために、塩水選を行いましょう。◇ 溶液中に粉を入れる際は、棒などでよく攪拌して粉についた気泡を落として下さい。

区分	比重	水10ℓ当たりの食塩の量
うるち粉	1.13	1.9 kg
もち粉	1.08	1.1 kg

※ 塩水選後の種子は、「必ず水洗い」しましょう。

裏面もご覧下さい!!

JAえちご中越 さんとう地域「特別栽培米 使用基準」

【コシヒカリBL・契約栽培こがねもちの使用基準】

新潟県が定める特別栽培農産物使用基準が改正（令和6年1月18日）され、特別栽培米の化学肥料使用量（窒素成分）が「3.0kg以下から3.5kg以下」に見直し・改正されました。このことを踏まえ、令和6年度よりさんとう地域の特別栽培米使用基準を以下のとおり改訂しています。なお、下表の使用肥料基準をめやすとして、出穂期前の著しい葉色低下や登熟期間の異常高温が予想される場合には、化学肥料使用量「窒素成分：3.5kg以下」の範囲内で追加穂肥の施用を検討してください。

【令和7年度の変更点】①コシヒカリBLの一発基肥肥料に「越後の輝き有機50スーパー元肥ロング」を追加、②本田除草剤の内、一発処理剤を「ベッカク剤」へ切り替え、③本田防除：ブーン粒剤を追加

今回追加した一発基肥「越後の輝き有機50スーパー元肥ロング」は、高温障害対策や後期栄養の確保を目的に、従来品穂肥相当分の溶出時期「90日タイプ」を「110日タイプ」に変更することで登熟後期の肥効切れが軽減されます。

<<JA:使用肥料基準>> → 「化学肥料使用量（窒素成分）3.5kg/10a」の範囲内で栽培します。

使用区分	品目名	使用量の目安	化学合成由来窒素成分 kg/10a	成分 (%)				摘要
				窒素	うち有機	リン酸	加里	
育苗	* 稚苗苗代配合	30g/箱	0.024	4		6	5	20箱/10a
	ホーネンス培土1号	2.8kg/箱	0.026	0.046		0.046	0.046	20箱/10a
	ホーネンス培土1号Si	2.8kg/箱	0.026	0.046		0.046	0.046	20箱/10a
	亜リン酸入ホーネンス培土1号	2.8kg/箱	0.026	0.046		0.135	0.110	20箱/10a
	【共土用】亜リン酸入ホーネンス培土1号	4.0kg/箱	0.028	0.035		0.097	0.077	20箱/10a
	くみあい液肥2号	10g/箱	0.020	10		4	8	20箱/10a
	尿素46%	2g/箱	0.019	46				20箱/10a
	* べんとう肥	20g/箱	0.032	8		8	8	20箱/10a
基肥	* 越後の輝き有機50元肥エコ	30kg	1.470	10	5.10	8	8	
	越後の輝き有機50スーパー元肥	50kg	2.950	12	6.10	6	5	こがねもち 推奨
	越後の輝き有機50スーパー元肥ロング	50kg	2.950	12	6.10	6	5	コシヒカリ 推奨
	有機50早生スーパー元肥2号	40kg	2.360	12	6.10	7	6	※令和7年のみ使用可
穂肥	* 越後の輝き有機50穂肥	25kg	1.425	12	6.30	2	8	
	さんとう穂肥有機	20kg	2.460	14	1.70	1	14	
	尿素46%	1kg	0.460					
	* ドローン用 尿素43	1kg	0.430					
その他の肥料	みらい有機831	20kg	-	8	8.00	3	1	
	鶏ちゃんパワー	30~60kg	-	4	4	3	2	参考値
	ニュー米スター	30kg	-			2		Si 32
	みつパワー	60kg	-					Si 25
	スーパーシリカプレミアム	20kg	-					Si 30
	苦土重焼燐	20kg	-			35		
	けい酸加里プレミア34	20kg	-				20	Si 34
	マグコープ	20kg	-			17		
田んぼの鉄人	15kg	-					水溶性鉄：17%を含む	
【例】	* 印を標準使用した場合の化学由来窒素		3.381					

※ 上記の使用基準を参考に、使用する資材のトータル化学合成由来窒素成分が県認証基準3.5kg以下となるよう施肥設計して下さい。

<<JA:使用農薬基準>> → 「節減対象農薬使用回数（成分回数）：以下の統一農薬9成分」の範囲内で栽培します。

使用区分	資材名	用途	使用成分数	摘要	
種子消毒	タフブロック	殺菌	-	他の種子消毒殺菌剤との併用不可	
育苗	カスミン（粒剤・液剤）	殺菌	-	細菌性病害対策	
育苗箱処理	パディート（1箱粒剤）	殺虫	1	床土混和可能	
	ブーンパディート（1箱粒剤） ※1	殺菌	（2）	床土混和可能：いもち病対策	
本田除草剤	初期剤	メテオ（1箱粒剤・7077アル・ジャンボ）	除草	1	一発処理剤との体系処理
	一発処理剤	ベッカク（1箱粒剤・豆つぶ・ジャンボ）	除草	3	エンペラー剤からの切替品
	中・後期剤	クリンチャー（1箱粒剤・EW・ジャンボ） ※2	除草	1	ノビエが発生した場合に使用
	中・後期剤	バサグラン（粒剤・液剤） ※2	除草	1	広葉雑草が発生した場合に使用
本田防除	ブーン粒剤 ※1	殺菌	（1）	いもち病 本田予防防除	
	スタークル（粒剤・液剤10・豆つぶ）	殺虫	1	共同防除（カメムシ等）	
			8		

本田防除（緊急防除）	カスミン（液剤）	殺菌	-	いもち病（緊急防除）
	バリダシン（液剤5・粉剤DL）	殺菌	-	紋枯病（緊急防除）
	Zボルドー（粉剤DL）	殺菌	-	稲墨黒穂病・稲こうじ

- ※1 いもち病が発生しやすい地域・ほ場で活用してください。ただし、箱剤と本田剤の重複使用は不可となります。
- ※2 クリンチャーバスマE液剤でも可です。ただし、単剤との重複使用は不可となります。
- ※3 上記以外の品目を使用した場合、特別栽培米の対象から外れる場合があります。



「ベッカク」の豆つぶ・ジャンボ剤使用時期は田植後3日～移植後30日までジャ。代かき後10日以内の“早め”のタイミングで除草剤を散布するのジャ!!

3. 耕起前の本田準備

ホタルイ・クログワイなど、多年性雑草の多発生にお悩みではありませんか？これらの雑草は、冬の低温期に地上部が枯れた場合でも地表近くや地下の茎基部・根塊が生存し、春先の気温・地温の上昇で4月上旬ころから萌芽・再生します。北陸地方の向こう1か月の天候の見通しでは晴れの日が多く、気温も高い予報であることから雑草の萌芽・再生が早まりそうです。（*萌芽とは…草木が芽生えること）

	<p>地下部で生存した茎基部から直接葉を出して地際から分けつして株をつくる。種子の生産量も多く、水田でのホタルイは大量に生産する種子で増殖する一年生雑草としての特性も示す。</p>		<p>地下の増殖器官の先端や途中の節から地上茎を萌芽して繁茂する。繁殖力が旺盛で土中20~30cmの深さの塊茎からも萌芽する。また、ロータリー耕で地下茎が細断されても断片から萌芽・再生する。</p>
--	--	--	---



地表近くで4月上旬から再生・萌芽した多年性雑草は、本田初中期の一発除草剤を散布する時期には薬剤効果の限界葉齢を超える大きな雑草となって「雑草の取りこぼし」の最大の要因となります。

対策

「特別栽培米」以外を作付けするほ場で“多年性雑草が多発生する”場合には、「耕起前の茎葉処理除草剤（ラウンドアップMRなど）」を活用した雑草防除を検討してください!! →あわせて「少なめ入水+ていねいな代かき」で越冬雑草を地中に埋没させてください!!



~~~~ 営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ ~~~~

